

ロシアのクリミア“出兵”に退路はあるか？

人民網 20140304 ソース：解放日報

阿部信行

(訳者コメント)

クリミア紛争に対して中国はどう対処するか、興味を持って見ていますが、中国は、やはり国益第一を考慮し、安易にプーチンへの支持を表明しませんでした。

中国ウイグル自治区での”テロ”事件に対して、プーチンは直ちに中国政府の対応に支持を表明しましたが、中国はクリミアでのロシアの行動を支持はしませんでした。

人民網に関連記事がありましたので紹介します。世界の枠組みが揺れています。

ロシアのプーチン大統領は、ウクライナ問題でめずらしく 1 ヶ月近く沈黙したのち、終に必殺技―クリミア出兵―を出した。3月1日、プーチンはロシア連邦委員会（議会上院）にウクライナ領土での武力行使の承認を求め了承を得た。ロシアはウクライナ問題で多くの切り札を持ってはいるが、プーチンは最後の手段である“出兵”を選択したのだ。表面から見ると、ロシアのこの行動は自ら退路を断つものであり、一か八かの賭けに見える。實際上、ロシアが打った球は、エッジボールで、打ち返せないボールである。1997年に署名した「ロシア・ウクライナ暫定黒海艦隊地位協定」では、ロシア軍は必要な状況下で黒海艦隊基地の安全を保障するためクリミアに進入することができる。ロシアのクリミアでの行動は、協定の枠組み内に留まっているのは明らかであり、協定の関連条項を最大限用いているに過ぎず、正当な政治路線を未だ踏み越えてはいない。

しかし現状は、クリミア出兵はロシアに何ら利益をもたらしてはいない。ロシアが選択したこの関与は、やむを得ず採った行動であることは明らかだ。ロシアのクリミア出兵は、すでに自らを追い込んでおり、ロシアは今後さらに困難な問題に直面する可能性がある。一旦、ウクライナ東部及び南部の親ロシア勢力が独立或いはロシアへの編入を要求した場合、ロシアが支持しようとしまいと、ロシアは自ら進退に窮する立場に陥る。またロシアと欧米がバクチを継続すればするほど、間違いなくロシアの限りある戦略資源は雲散し、ロシア国内の政治的、経済的、社会的危機を引き起こす可能性がある。

クリミア問題において、ロシアは、2008年に西側が演じたロシア・グルジア戦争中の対応に期待を寄せてはならない。当時は、グルジアが最初に手を出した。

ロシアの対応は驚くほど強硬であった。しかし西側は、グルジアのためにロシアと直接対決することは望まなかった。結局、西側にとってのウクライナの価値は、グルジアと同じように論じることができない。

しかも、ウクライナ問題での欧米とロシアの膠着状態はすでに形成され、双方がますます強硬になる悪循環に陥っている。3月2日、G7 国家は、ロシアが主催する 8 個国サミット予備会議のボイコットを宣言し、米国はロシアを 8 個国集団から追い出すかもしれないと脅迫した。

以上